

サワラの初期発育過程

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-04-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松岡, 正信 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2014569

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



サワラの初期発育過程

松岡正信

サワラ仔稚魚生体のシリーズ標本写真を初めて示した。人工受精卵を0.5トンの水槽内でふ化させ、仔稚魚飼育を行った。生体標本の外部形態の発達過程を実態顕微鏡で観察し、写真撮影を行った。ふ化後4日齢の仔魚は、いくらかの油球を持っていたが、クロダイのふ化仔魚を摂餌し始めた。10日齢の仔魚では、脊索はまだ直線的であったが、尾鰭条の原基が形成された。その後、形態変化が急速に進み、15日齢では発育がかなり進んだ状態であった。18日齢では、すべての鰭条が完全に形成され、稚魚となっていた。

栽培技研, 33(2), 85-87, 2006